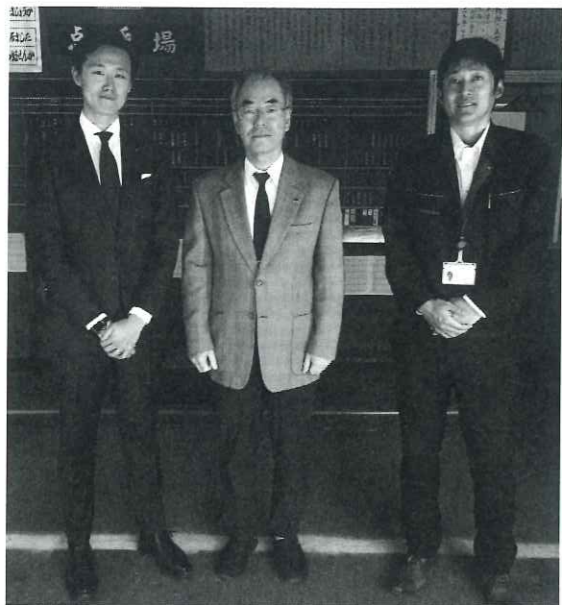


〈特集〉「急げタクシー活性化！」

～RS解禁論に負けるな！進めよう、公共交通・タクシーの維持・拡大～

無線とアプリの配車をワンタブレットに集約

モバイルクリエイト × DiDi × 新東宝タクシー



モバイルクリエイト(村井雄司社長、大分県大分市)とDiDiモビリティジャパン(和久山大輔社長、東京都港区)は、1日からモバイルクリエイトの無線用タブレットとDiDiドライバーアプリを連動させる新たなサービスの提供を開始した。関西圏では新東宝タクシー(岸下義幸社長、大阪府東大阪市)がそのトップパートナーとして同日から「全国初」として運用を始めたが、それに先立つ10月27日、モバイルクリエイトとDiDiの関係者が同社を訪れ、同社乗務員も立ち会って、動作検証を実施。「業務効率の改善」「運行の安全性」をテーマに取り組む両社の狙い通り、受注画面の切り替え等もスムーズに行われた。コロナ禍の「失われた3年」を経て、タクシー業界はまたひとつ頼もしい営業ツールを手にしたと言えそうだ。(唐鎌)

新東宝タクシーでは、従来からの中型セダン(クラウン・スーパーデラックス)のほか、代替車両としてプリウスα、シエンタ、カローラ・アクシオなどを導入し、現在75両を保有しているが、新型システムは、今回46両に搭載した。

岸下社長は「新たにDiDiも併用するし、まずは積極的に無線を取る手慣れた乗務員から導入した方が混乱も少ないだろうと思い、そのようにした。あとは様子を見て順次増やしていきたい」との考えを示した。



「最も魅力的だった」自動配車システム

新東宝タクシーで新システム導入の牽引役を担った松下忠明氏は本紙の取材に、昨年末それまで使用していた富士通ゼネラルの無線システムにトラブルが生じたことをきっかけに、新たな機器の選定を迫られる中で、幾多の無線ベンダーと話をし、「(個人的に)最も魅力的だったのがモバイルクリエイトのシステムだった」と話す。

また松下氏はIVRを活用した自動車配車システムによる無線業務の省人化に加え、「(移動局の)端末の使い勝手も素晴らしく、何より新たな装備を必要とすることなく、DiDiのアプリを活用できるのも良かった」とも語った。同社ではDiDiとの連携を待つことなく、今夏までに無線機器の入れ替えを行い、「新たな運用にこぎ着けた」と考えていたが、コロナ禍により商品の入荷が遅れ、また基地局におけるNTTの工事の関係もあって、結果的には10月25日に回線工事を行い、翌26日から新たな運用を開始する運びとなった。

大阪・北海道の2社で運用開始

10月27日の動作検証は午前10時から新東宝の本社営業所(東大阪市小阪)の敷地内で行われ、当日はモバイルクリエイトの後藤俊補・第一営業主任、DiDiの営業本部アカウントマネジメント部の遠藤光敏・マネージャー、同部の栗林佑樹氏、戦略本部オペレーション部プロダクトオペレーションの見留翔太氏が姿を見せ、新東宝のシエンタに搭載された無線用タブレット上での動作を入念にチェックし、また乗務員に対しても細部にわたる説明を行った。

モバイルクリエイトの後藤氏は、記者の質問に「2年ぐらい前から、当社では無線と配車アプリの連携を検討しており、ようやくそれがDiDiとの間で実現することになった。年内はプレス発表(10月30日)にもあるように新東宝(11月1日から運用スタート)と北海道のケーエス北の星観光バス(小堤文郎社長、北海道函館市、27両=11月6日から運用開始)の2社だけだが、すでに全国から多数問い合わせも頂戴しており、年明けからさらに取り組みは加速すると思う」との見通しを示した。

DiDiの遠藤氏も「既にプレス発表を行った通り、他社の無線ベンダーとも連携する方向でいろいろと検討を重ねてきたが、連携が実現したのはモバイルクリエイトが初めてであり、タクシー車両に実装したのも今回が初めて。今後とも営業効率や安全面を考えながら、よりドライバーの方が負担を感じることなくスムーズに日々の業務に当たれるよう、側面から応援していきたい」と笑顔で語った。

よりイノベティブな取り組みに期待

無線のみならず、「タクシーのAI化」の必要性が指摘されて久しい昨今。とはいえ、さまざまな備

品が溢れる運転席。充電を重ねることでバッテリーが著しく劣化するなどの弊害も多ければ、何より安全運行に気をつけなければいけないはずのドライバーにかかる負担も大きい。そうした中で実現した今回の取り組みはDiDi導入事業者に大きな朗報と言えよう。これまで別々の無線機やタブレットで受けていた配車依頼をモバイルクリエイトが提供するタブレットにひとまとめにして簡素化。機能も「柔軟な作り」となっており、無線用アプリの使用時にDiDiの注文が入ると、自動でDiDiのドライバーアプリに切り替わり、また無線用アプリ使用中にDiDiドライバーアプリの「受け付け開始・停止」を乗務員側で操作できるショートカットボタンなども用意されている。

今後もタクシー会社や複数のアプリ導入および乗務員の複数アプリ活用を推進するため、さらなる業務効率改善や操作性、安全性の向上につながるプロダクトの提供を目指すとする両社。アフターコロナに相応しい、よりイノベティブでスタイリッシュな取り組みに期待したい。

DiDiドライバーアプリへの切り替えイメージ



今後も、タクシー会社の複数アプリ導入および、乗務員の複数アプリ活用を推進するため、さらなる業務効率改善や、操作性と安全性の向上に繋がるプロダクトの提供を目指していきます。

■本取り組みの導入を開始するタクシー会社
・新東宝タクシー株式会社(大阪)：11/1～
・株式会社ケーエス北の星観光バス(北海道)：11/6～

■「DiDi」について
タクシー配車アプリ「DiDi」は目的地と乗車地点を入力すると指定の場所に平均5分*1でタクシーが到着するアプリです。全国15都道府県*2でサービスを展開しています。タクシー配車プラットフォームとして、タクシーに「乗りたい」と「乗せたい」をアプリでマッチングし、タクシー配車の最適化を実現します。「DiDi」は簡単3ステップでタクシーを呼ぶことができます。目的地を事前入力することで、ルートをアプリが自動設定するため、道順をドライバーに説明することも不要です。また、キャッシュレス決済が可能なので、車内での煩わしい現金のやり取りは不要です。利用者のタクシーに関わる様々な不満や不安を解消し、より安心してタクシーへご乗車いただけるようサービスの展開を行っています。

ダウンロード：https://didi.onelink.me/N0HP/aiK93po6

*1配車決定から指定の場所へ提携車両のお迎え時間(2022年1-12月の全国平均)、5分を超える/配車できない場合があります。
*2対応エリアの詳細はhttps://didimobility.co.jp/service/user/をご確認ください。

* 同社のプレスリリースより引用